

| | |
|-------------|---|
| Title | 京大東アジアセンターニュースレター 第416号 |
| Author(s) | |
| Citation | 京大東アジアセンターニュースレター (2012), 416 |
| Issue Date | 2012-04-30 |
| URL | http://hdl.handle.net/2433/155282 |
| Right | |
| Type | Others |
| Textversion | publisher |

目次

- 東アジア経済研究センター設立10周年記念シンポジウムのお知らせ
- 中国経済研究会のお知らせ
- 「討論・アジア経済」セミナーについて
- ミャンマー短信：2012年 4月上旬
- 重慶の薄熙来、華西の呉仁宝
- 【中国経済最新統計】

主催：京都大学東アジア経済研究センター

後援：京都大学東アジア経済研究センター協力会

東アジア経済研究センター設立 10 周年記念シンポジウム

歴史からみた東アジア

—長い時間軸による示唆—

日時：2012 年 7 月 9 日(月) 13 時

会場：京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール

13:00～13:10

挨拶 京都大学大学院経済学研究科長 植田和弘

第 1 部

13:10～14:40

記念講演（日本語使用）

アンドルー・ゴードン（米国ハーバード大学教授）

「日本近現代史と東アジア」（仮題）

第 2 部

15:00～17:00

研究報告 「150 年間の経済史と現代東アジア」

堀 和生（京都大学教授）「近現代世界における東アジア経済」（仮題）

木越義則（関西大学講師）「歴史からみる中国市場経済」（仮題）

17:20～18:50

懇親会

連絡先

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学経済学部 堀 和生

Tel: 075-753-3438 fax: 075-753-3492 e-mail: hori@econ.kyoto-u.ac.jp

「中国経済研究会」のお知らせ

2012年度第2回(通算第26回)の中国経済研究会は下記の要領で開催することになりました。今回は報告者の現

地訪問を交えながら、ブータンが提唱し、世界的に注目されている「国民総幸福量(Gross National Happiness)」について参加者の皆さんと一緒に考えていきたいと思います。大勢の方のご参加をお待ちしております。

記

時 間：2012年5月22日(火) 16:30-18:00

場 所：京都大学吉田キャンパス・法経済学部東館・地下1階みずほホールⅠ、Ⅱ

報告者：劉徳強（京都大学経済学研究科・地球環境学堂教授）

テーマ：「国民総幸福量(GNH)を追求するブータンの理念と現実
ーブータンの挑戦と中国への示唆ー」

注：本研究会は原則として授業期間中の毎月第3火曜日に行います。2012年度における開催(及び予定)日は以下の通りです。

前期：4月17日(火)、5月22日(火)、6月19日(火)、7月17日(火)

後期：10月16日(火)、11月20日(火)、12月18日(火)、1月15日(火)

(この件に関するお問い合わせは劉徳強(liu@econ.kyoto-u.ac.jp)までお願いします。なお、研究会終了後、有志による懇親会が予定されています。)

「討論・アジア経済」セミナーについて

この度、東アジア経済研究センターでは、アジアで生起し、論争の対象となっている経済問題について、専門家の方から解説のみならず、問題の解決の方向をも御提案いただき、じっくりと議論する「討論・アジア経済」セミナーを始めることとなりました。多くの方のご参加をお待ちしております。

「討論・アジア経済」セミナー（第1回）

＜東アジア経済研究センターの政策提言＞

論点提起者：宇野輝 京都大学経済学部特任教授

(東アジア経済研究センター協力会理事)

討論点：なぜ東アジアに向かわざるを得ないのか？

ー財政再建と官製金融そして経済成長と人口問題ー

2012年5月19日(土)15時 京都会場：京都大学法経総合研究棟8階リフレッシュルーム

2012年7月21日(土)15時 東京会場：京都大学東京オフィス(品川インターシティA棟)

ミャンマー短信：2012年 4月上旬

24. APR. 12

中小企業家同友会上海倶楽部代表

東アジアセンター外部研究員(協力会理事)

小島正憲

1. アウンサン・スーチーさん近況

- 選挙結果発表後、アメリカの経済制裁が少しずつ解除されるようになった。アウンサン・スーチーさんが率いるNLD政党が95%の当選を果たした中間選挙には、アジア諸国を含め各国の監視下で正当に行われたと言う評判が高かった。その結果ミャンマーに対して アメリカの経済制裁が順次解除するようになった。経済制裁項目がいくつかある中で、現時点で解除されたのは ミャンマーのトップ関係のビザ申請を許可、アメリカのNGO関係部門等の設立許可、教育や健康関係の援助チーム等の設立許可などである。ミャンマー政府と米国労働者に直接影響を与える貿易制裁に関しては簡単に解除することができず、アメリカ国会で許可されるまではまだ難しい状況である。アメリカ国会の中でもミャンマー政府をあまり信用しない国会議員がまだ存在しているからだという観測もある。
- 選挙に当選したアウンサン・スーチーさんは 内戦が続く地区のカレン族トップと面会する予定。4/8、10時にKNU代表団とアウンサン・スーチーさんが会う予定で、面談時平和に向けていかに協力していくのに関して相談していく予定であるという。KNUとしてはアウンサン・スーチーさんのNLD政党の目標である「国内全体の平和に向けて努力していくこと」に関して100%信用していると発言した。
- 今回の中間選挙でアウンサン・スーチーさんが率いるNLD政党は、過去2年間の最強の政党より人気が高まった。NLD政党は1990年の時のように、国民の間に90%以上の人気があり、2010年の総選挙に勝った政党は人気が落ち

てしまった。2 年前の最強の政党も近い内(4月末～5 月にかけて)に党員の再整理をし、党を組みなおしていく予定であるという。

2. 4/5より、ヤンゴンで、低価格(2万円)のGSMが発売

実際の使用可能になるのは4/9以降であるが、4/5から前もって販売が始まった。4～5 年前に比べてとても安い価格で 通信面が改善されるようになり、20 万チャット程度で携帯が使えるようになったため、販売が好調で、指定の 20 万チャットよりも相場がやや高い状態になっている。

3. 4/5、アメリカの GE会社No. 2が経済視察のため来緬

ニューヨーク株市場に登録しているGeneral Electric-GE会社No. 2のJohn G. Rice氏が、ミャンマーに新たなビジネスチャンスを見つけるため、4/5、来緬。政府関係者や経済業界人と面談。すでにGE会社は SeaLi on会社を現地代表会社として、2012 年 2 月からミャンマーのHEALTHケア面でミャンマー市場に入っている。

4. 外国人も1万USDまで、無申告で持ち込み可となる

従来、空港での外貨持込に色々と面倒な手続きが必要であったが、4/1より外国人も 1 万USDまで申告せずに持ち込みすることができるようになった。ちなみに、それ以前まで認められる持込可能金額は2000USDまで国際基準に基づき改善されたので入国時にかかる手間が一つ減った。

5. ヤンゴン市の計画停電、迷走

4/2から、ヤンゴンでは1日に12時間ほどの計画停電となり、一般企業や会社等が昼夜の交替勤務を迫られ、非常に困った。2010年選挙後、ヤンゴンには電力の24時間供給が約束され、2011年にはその通り守られたが、2012年になってからこのようになった。そのため多くの市民がメディアを通じて不満を表明した。2 年前の計画停電のときはあまり自由に発言できず、黙って政府の計画に従うだけだったが、今回の計画停電に関してはメディア等を通じて市民の意見が噴出した。政府もそれに押されて、10 日間のみ計画停電を実施し、その後、なんとか24時間供給体制に戻した。しかし、これはちょうど政府機関が連休中であるため、24 時間電気供給が可能になっているだけであり、今後も続行されるとは限らない様子である。再度、計画停電が実行されれば、昼間電気なし、夕方 5 時から翌朝 5 時までの電気供給となる。

6. 最低賃金決定の方向

ワーカーのストライキ等がよく起きるミャンマーでは 近い内に最低給料賃金基準法が決まる。これまでワーカーの最低給料賃金基準法がなかったが、現在その案は政府に提出済みで、近い内に決定する方向。この法が制定されれば、従業員と会社側とのもめ事もなくなり、ストライキ等もかなり減ると予想されている。

7. イスラエル企業、ミャンマーの水産業に投資調査

4/21にイスラエルのビジネスマン達が、ミャンマーの水産業に投資する可能性を探るため来緬。イスラエル側には国際大学等の水産業関係教授も同行、研究結果等をミャンマー側に報告。ミャンマー側とどう協力関係を高めるかに関して商談。今回訪緬したビジネスマン達はインド・中国・ベトナム・タイとオーストラリア等でも投資している。隣国のタイからもミャンマーで水産業面の投資が活発化している。

8. 車輸入に関する税金が再調整

車の輸入規制が解除されてから、排気量に関係なく、貿易税65%の他 交通管理部門税100%税金を徴収されていたが、4/2より改革、下記のように区別された。この新税金制度により、バスやトラックの輸入が増えて来る見通し。

- ・バス 15人乗り以上の車と トラックは5%の税金
- ・排気量が1350cc以下の場合50%の税金、1350cc～2000cc:80%、2001～5000cc:100%、5000cc以上:120%。

以上

重慶の薄熙来、華西の呉仁宝

京都大学名誉教授・慶應義塾大学教授

現在の中国を読み解くキー・ワードに薄熙来という人物の名前が浮上した。4月16日づけ『日経新聞』によると温家宝などと対立し、彼らの汚職を摘発しようとしたことから逆に温家宝などの攻撃を受けて失脚したということであるが、もちろんこれは単なる「権力闘争」ではない。国をどちらに持って行くか、という問題についての路線闘争の反映であり、もっと言うと、この闘争はその「路線」によって誰が利益を受けるかという闘いとして存在した。所得再分配を主張する薄熙来が敗北したということは、所得再分配で利益を受ける社会階層が敗北したということである。

しかし、ともかく、今回の重要さは、この「権力闘争の顕在化」、正確には「路線闘争の顕在化」であり、薄熙来氏に繋がる諸勢力が全国に散らばって存在するということである。あるいは、彼の重慶市での政治に繋がるような経験を持つ地方が中国全土には他にもあるということの意味し、そのひとつはもっと派手に「共産主義村」を宣伝している河南省の南街村で、もうひとつは大無錫市の一部にある華西村である。私は昨年4月に南街村を訪問してこのニューズレターでレポートしたが、今度はこの2月に華西村を訪問し、また多少は資料を集めた。重慶式の地方がいくつかある、そのひとつの事例として今回は華西村をレポートしたい。南街村のような「労働商券の発行」や大量の外部労働者を持たないという意味では比較的重慶に似た村であること、また突出した指導者を持っているという共通性があることがその理由である。

しかし、その紹介も簡単にはすまないで、まず今回は1957年に華西村党書記に就任以来、一貫して「社会主義」的建設を進めてきた呉仁宝の思想を知る上での資料を紹介するという方法をとりたい。具体的には、華西村で入手した「社会主義富華西」編集委員会編『社会主義富華西 呉仁宝宣講報告集萃』光明日報出版社、2011年に収録された2本の講話のほぼ全文である。最初の「党を愛し国を愛し華西村を愛す、家族を愛し友を愛し自分を愛す」は1985年8月20日に華西村の村民大会でなされたもので、2つ目の「共産党への信仰は永遠に動揺しない」は1989年8月4日に華西村党委員メンバー会議でのものである。コンパクトにまとめられたこの書物の最初の2つの講話として重視された講話であるから、世の多くの人に読まれるべきテキストとして扱われているものでもある。その意味で資料的価値があると考えた。

以下、当講話である。

党を愛し国を愛し華西村を愛す、家族を愛し友を愛し自分を愛す

・・・「六愛」とは何か。それは「党を愛し国を愛し華西村を愛す、家族を愛し友を愛し自分を愛す」ということである。

最初は「愛党」であり、これは「六愛」の核心である。事実は共産党なしに新中国がなかったこと、共産党なしに華西村民の今日の一切はなかったことを示している。華西村民は自己の身近な多年の経験を踏まえ、共産党は良く、特色ある社会主義は良いと賛美し、人々は党を熱愛し、固く信じ、党の話を聞き、党と共に歩んでいる。1988年の頃、社会には資産階級自由化の冷風が吹き、黨員になってもなくてもよいという人も現れた。そこで我々はまず党内において幹部から一般黨員にいたるまで何度も教育し、新旧社会を対比するやり方を使って古い黨員には現場で説法してもらい、村史や家の歴史や個人の成長史を講じてもらった。彼らは、旧社会では華西村農民は食べるに乏しく壊れた家に住み、お金がないために読書して文章を書くことができなかったと述べた。現在は「八有八無」の共同富裕を実現している。ある人は華西村がこのように良いのは私呉仁宝の功績であると言うが、私は言う「そうではない。私はただ一匹の牛カエルで、もし共産党がなかったら、この村、この郷、この県(県委員会書記)の行政官にはなれなかった。華西が今日ようになったのは、すべて共産党の指導が良かったからである」と。1989年にはわが村の黨員は100名を超えたので、上級党組織に批准申請をして7月1日に村の党委員会が成立し、また全省で第一の村級の党委員会となった。我々華西村の黨員は、過去において党を愛してきた。そして、現在も党を愛し、将来もまた党を愛し、一生心を党に向け、一生党と共に歩む。これはすでに華西村民の共同の信念となっている。

二つ目は「愛国」であり、これは「六愛」の主題である。愛国主義教育は非常に重要である。社会主義で頑張る以上、自己の富を顧みて自分だけ豊かになったり、国を忘れたりしてはならない。もし国家が豊かでなければ、自分の富も長くは続かない。したがって、教育に携わる者たちは国家と集団と個人の3者の関係を正確に認識・処理しなければならない。また、「個人が富んでも富とは言えず、集団が富んで初めて富と言え。一村が富むだけでは富とは言えず、全国が富んで初めて富と言え」である。華西村は過去において国家のために食糧をしっかりと供給し、現在は「愛党愛国愛華西、愛親愛友愛自己」で多くの税を国に納め、国家に役立っている。・・・

三つ目は「愛華西」であり、これは「六愛」の具体的表現である。国家から論ずれば、愛国とは愛国精神、民族精神を持たねばならないということである。華西から論ずれば、愛村とは愛村精神を持たねばならないということになる。我々華西村の愛村精神とは「苦勞して奮闘し、団結して進み、分配を受け入れて実績を積む」との華西精神のことである。華西村で働く者として企業を愛し、企業を維持擁護しなけれ

ばならない。我々は華西村民がこの集団を愛するように教育することであって、狭隘な自己本位主義と誤解してはならない。華西を愛し、企業を愛するというのが、愛党、愛国の具体化であり、着地点である。

四つ目は「愛親」であり、これは「六愛」の延長である。これは父母の子供に対する、子供の父母に対する、夫・父親の妻子に対する、妻子の夫・父親および直系親族に対するものであって、これらの愛は必ず求められる。ここでは愛護しあうことが良いと述べるのは、原則的な立場を堅持してのことであって、共同で勤労し共同で富むということを堅持し、法を守った上での愛護であり、通俗的な観念で親族に対するというようなものではない。・・・

五つ目は「愛友」であり、これは「六愛」の展開である。これはよく守り、「五友」(官友、親友、友人、戦友、校友)の影響によく注意する必要があるが、特にありがた迷惑をかけないことである。我々華西村民の考え方は享楽を貪る友を作らず、無原則な友を作らず、勤労で豊かになり、法律を遵守する友を作ることである。同時に、広く有益な友と交わり、信用し尊敬できる友、共同で操業できる友、共に手を携えて進める友を持つことが必要である。

六つ目は「愛自己」であり、これは「六愛」の基礎で、また「六愛」の核心である。自己を愛することの鍵は「自愛、自重、自立、自強」に至ることではなければならない。華西の村民、職工がさらによく「自己を愛す」ようにするため、我々は皆がひとつの「愛自己」の良好な環境を作る努力をし、冶金や外国語や管理部面のトレーニング・チームに大学の専門家や教授の講義を聞かせ、最終的にはどの華西村民も不断に総合的な素質を引き上げ、不断に華西の発展に活用させなければならない。

共産党への信仰は永遠に動揺しない

華西発展の歴史を振り返るに当たり、我々は何によって一年一年より良い状況を作ることができるのか。そのカギは我々がずっと中国共産党を信じ、社会主義の道をしっかりと堅持し、共同富裕を実現した結果だということにある。今年(1989年)6月に私が作詞した「華西村歌」から最も良い説明ができる。当時、歌詞の最後の一句は「社会主義派必ず資本主義に勝利することができる!」であったが、天安門事件の終息以降、私はこの一句を「社会主義は必ず華西を豊かにできる!」と書き換えた。しかし、なぜ私はこの書き換えをしたのか。主要な理由は2ヶ月前の天安門事件の際に、我々の社会に一部に党を信ぜず、さらには党を離れるといった現象が見られたからである。・・・

現在、私はもう一度「村歌」の内容を話したい。第一句は「華西の天は共産党の天だ」である。歴史を通じ、大衆と実践経験は中国共産党がひとつの光栄、正確、偉大な党であるだけでなく、全国10億人民を暗黒から出させ、光に向かって進ませ、一步一步富ませたことを証明している。華西村が今日あるのは、党の方針や政策の正確な指導から離れなかったからである。この数十年ずっと共産党への信仰から離れることはなかった。だから、共産党なしに新中国はなく、共産党なしに華西村民の今日の一切はないのだ! 第二句は「華西の地は社会主義の地」である。何が社会主義であるか? 人民の幸福が社会主義である! 我々共産党は人民の利益のために着想し、人民に奉仕する党である。華西として言うと、華西村を社会主義の土地とし、さらに大きな利益を実現し、我々の庶民の幸せを作り出すことである。第三句は「華西人民は苦勞奮闘する」である。過去において苦勞を良いこととする作風があり、現在も華西村民は苦勞奮闘する精神を発揚し、このような伝統と美德を代々伝えなければならない。我々は力を絞って集団経済を発展させ、集団の資産を増やし、国家に多くの貢献をしなければならない。第四句は「団結前進」である。団結を理解することは大きな智慧であり、団結できることは大きな才能である。華西村の団結は原則を論じる団結、正しいことを論じる団結であり、徒党を組む団結、小団体の団結ではない。たとえば、人民の利益を侵害し、ひどい場合には人を動揺させ、惑わすようなものはやめさせなければならない。第五句は「錦綉三化三園」である。80年代に我々は「三化三園」というものを提出した。いわゆる「三化」とは美化、緑化、浄化で、いわゆる「三園」とは遠くから見れば林園のようで近くから見れば講演に見え、しかしよくよく見るとそこで農民が幸せに生活している楽園である。第六句は「華西を実験検証する」である。数十年の実践は上に至って華西をすでに上級幹部の公認するものとし、また下に至っては庶民の信任を得たものとした。我々が通ってきた道は実際に適合していただけてだけでなく、検証することもできる。第七句は「社会主義は必ず華西を富ませる」である。この句は我々の内心から出た本音であり、我々の固い信念を示している。華西の成功実践は「中国の特色ある社会主義は必ず華西を富ませる」ということを検証しただけではなく、さらに人々に「中国の特色ある社会主義は必ず中国を富ませる」という偉大な真理を示しているのである!

(本レポートの作成には日本学術振興会「アジア・コア」事業資金が大いに役立っている。)

【中国経済最新統計】

| | ① 実 質 GDP 増加率 (%) | ② 工 業 付 加 価 値 増加率 (%) | ③ 消費財 小売総 額増加 率(%) | ④ 消費者 物価指 数上昇 率(%) | ⑤ 都市固 定資産 投資増 加 率 (%) | ⑥ 貿易収 支 (億 ^{ドル}) | ⑦ 輸 出 増加率 (%) | ⑧ 輸 入 増加率 (%) | ⑨ 外国直 接投資 件数の 増加率 (%) | ⑩ 外国直 接投資 金額増 加率 (%) | ⑪ 貨幣供 給量増 加 率 M2(%) | ⑫ 人民元 貸出残 高増加 率(%) |
|--------|-------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|------------------------|------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|
| 2005 年 | 10.4 | | 12.9 | 1.8 | 27.2 | 1020 | 28.4 | 17.6 | 0.8 | ▲0.5 | 17.6 | 9.3 |
| 2006 年 | 11.6 | | 13.7 | 1.5 | 24.3 | 1775 | 27.2 | 19.9 | ▲5.7 | 4.5 | 15.7 | 15.7 |
| 2007 年 | 13.0 | 18.5 | 16.8 | 4.8 | 25.8 | 2618 | 25.7 | 20.8 | ▲8.7 | 18.7 | 16.7 | 16.1 |
| 2008 年 | 9.0 | 12.9 | 21.6 | 5.9 | 26.1 | 2955 | 17.2 | 18.5 | ▲27.4 | 23.6 | 17.8 | 15.9 |
| 2009 年 | 9.1 | 11.0 | 15.5 | 1.9 | 31.0 | 1961 | ▲15.9 | ▲11.3 | ▲14.9 | ▲16.9 | 27.6 | 31.7 |
| 12 月 | 10.7 | 18.5 | 17.5 | 1.9 | (30.5) | 184 | 17.7 | 55.9 | 9.7 | -44.6 | 27.6 | 31.7 |
| 2010 年 | 10.3 | 15.7 | 18.4 | 3.3 | 24.5 | 1831 | 31.3 | 38.7 | 16.9 | 17.4 | 19.7 | 19.8 |
| 1 月 | | | | 1.5 | | 142 | 21.0 | 85.6 | 24.7 | 7.8 | 26.0 | 29.3 |
| 2 月 | | (20.7) | (17.9) | 2.6 | (26.6) | 76 | 45.7 | 44.7 | 2.5 | 1.1 | 25.5 | 27.2 |
| 3 月 | 11.9 | 18.1 | 18.0 | 2.4 | 26.3 | ▲72 | 24.2 | 66.4 | 28.1 | 12.1 | 22.5 | 21.8 |
| 4 月 | | 17.8 | 18.5 | 2.8 | 25.4 | 17 | 30.4 | 50.1 | 21.3 | 24.7 | 21.5 | 22.0 |
| 5 月 | | 16.5 | 18.7 | 3.1 | 25.4 | 195 | 48.4 | 48.9 | 29.3 | 27.5 | 21.0 | 21.5 |
| 6 月 | 10.3 | 13.7 | 18.3 | 2.9 | 24.9 | 200 | 43.9 | 34.6 | 8.3 | 39.6 | 18.5 | 18.2 |
| 7 月 | | 13.4 | 17.9 | 3.3 | 22.3 | 287 | 38.0 | 23.2 | 12.8 | 29.2 | 17.6 | 18.4 |
| 8 月 | | 13.9 | 18.4 | 3.5 | 23.9 | 200 | 34.3 | 35.5 | 21.2 | 1.4 | 19.2 | 18.6 |
| 9 月 | 9.6 | 13.3 | 18.8 | 3.6 | 23.2 | 169 | 25.1 | 24.4 | 12.2 | 6.1 | 19.0 | 18.5 |
| 10 月 | | 13.1 | 18.6 | 4.4 | 23.7 | 271 | 22.8 | 25.4 | 8.7 | 7.9 | 19.3 | 19.3 |
| 11 月 | | 13.3 | 18.7 | 5.1 | 29.1 | 229 | 34.9 | 37.9 | 28.1 | 38.2 | 19.5 | 19.8 |
| 12 月 | 9.8 | 13.5 | 19.1 | 4.6 | 20.4 | 131 | 17.9 | 25.6 | 9.2 | -13.3 | 19.7 | 19.9 |
| 2011 年 | 9.2 | | | | | | | | | | | |
| 1 月 | | | 19.9 | 4.9 | 23.7 | 65 | 37.7 | 51.4 | 16.6 | 11.4 | 17.3 | 16.9 |
| 2 月 | | 14.9 | 11.6 | 4.9 | — | -73 | 2.3 | 19.7 | -10.9 | 32.2 | 15.7 | 16.2 |
| 3 月 | 9.7 | 14.8 | 17.4 | 5.4 | 31.2 | 1 | 35.8 | 27.4 | 10.5 | 32.9 | 16.6 | 16.2 |
| 4 月 | | 13.4 | 17.1 | 5.3 | 37.2 | 114 | 29.8 | 22.0 | 8.2 | 15.2 | 15.4 | 15.8 |
| 5 月 | | 13.3 | 16.9 | 5.5 | 33.6 | 130 | 19.3 | 28.4 | 12.1 | 13.4 | 15.1 | 15.4 |
| 6 月 | 9.5 | 15.1 | 17.7 | 6.4 | 11.8 | 223 | 17.9 | 19.0 | 6.6 | 2.8 | 15.9 | 15.2 |
| 7 月 | | 14.0 | 17.2 | 6.5 | 27.7 | 315 | 20.3 | 23.0 | 2.7 | 19.8 | 14.7 | 15.0 |
| 8 月 | | 13.5 | 17.0 | 6.2 | 33.4 | 178 | 24.4 | 30.4 | 6.4 | 11.1 | 13.6 | 14.8 |
| 9 月 | 9.1 | 13.8 | 17.7 | 6.1 | 27.3 | 145 | 17.0 | 21.1 | -3.5 | 7.9 | 13.1 | 14.3 |
| 10 月 | | 13.2 | 17.2 | 5.5 | 34.1 | 170 | 15.8 | 29.1 | -0.6 | 8.7 | 16.7 | 14.1 |
| 11 月 | | 12.4 | 17.3 | 4.2 | 21.4 | 145 | 13.8 | 22.6 | -12.9 | -9.8 | 16.2 | 14.0 |
| 12 月 | 8.9 | 12.8 | 18.1 | 4.1 | 5.7 | 165 | 13.3 | 12.1 | -15.4 | -12.7 | 17.3 | 14.3 |
| 2012 年 | | | | | | | | | | | | |
| 1 月 | | | | 4.5 | 25.3 | 273 | -0.5 | -15.0 | 4.6 | 10.8 | 16.6 | 14.8 |
| 2 月 | | 21.3 | | 3.2 | — | -315 | 18.3 | 40.3 | 38.7 | -0.9 | 17.8 | 15.0 |
| 3 月 | 8.1 | 11.9 | 15.2 | 3.6 | 21.1 | 53 | 8.8 | 5.4 | -6.5 | -6.1 | 18.1 | 15.7 |

注：1. ①「実質 GDP 増加率」は前年同期（四半期）比、その他の増加率はいずれも前年同月比である。

2. 中国では、旧正月休みは年によって月が変わるため、1 月と 2 月の前年同月比は比較できない場合があるので注意されたい。また、() 内の数字は 1 月から当該月までの合計の前年同期に対する増加率を示している。

3. ③「消費財小売総額」は中国における「社会消費財小売総額」、④「消費者物価指数」は「住民消費価格指数」に対応している。⑤「都市固定資産投資」は全国総投資額の 86%（2007 年）を占めている。⑥—⑧はいずれもモノの貿易である。⑨と⑩は実施ベースである。

出所：①—⑤は国家统计局統計、⑥⑦⑧は海関統計、⑨⑩は商務部統計、⑪⑫は中国人民銀行統計による。